

## 第193回 上級 工業簿記①

問題 1

問 1

補助部門費配賦後の切削部門費予算 [ 5,381,960 ] 円  
 内訳：変動費 [ ③ 2,148,160 ] 円 固定費 [ ③ 3,233,800 ] 円  
 補助部門費配賦後の組立部門費予算 [ 4,783,040 ] 円  
 内訳：変動費 [ ③ 2,411,840 ] 円 固定費 [ ③ 2,371,200 ] 円

問 2

切削部門の予定配賦率 [ ④ 1,345.49 ] 円/時間  
 組立部門の予定配賦率 [ ④ 1,913.216 ] 円/時間

問 3

補助部門費配賦後の切削部門費予算 [ 5,394,000 ] 円  
 内訳：変動費 [ ③ 2,152,000 ] 円 固定費 [ ③ 3,242,000 ] 円  
 補助部門費配賦後の組立部門費予算 [ 4,771,000 ] 円  
 内訳：変動費 [ ③ 2,408,000 ] 円 固定費 [ ③ 2,363,000 ] 円

問 4

切削部門の予定配賦率 [ ④ 1,348.5 ] 円/時間  
 組立部門の予定配賦率 [ ④ 1,908.4 ] 円/時間

問 5

動力部門費

諸 口	2,677,200	切削部門費	[ ② 1,311,300 ]
( )	[ ]	組立部門費	[ ② 1,066,320 ]
原価差異	[ ]	(修繕部門費)	[ 262,260 ]
		原価差異	[ ② 37,320 ]

修繕部門費

諸 口	1,284,700	切削部門費	[ ② 913,308 ]
(動力部門費) ②	[ 262,260 ]	組立部門費	[ ② 608,872 ]
原価差異	[ ]	( )	[ ]
		原価差異	[ ② 24,780 ]

(注) 記入する必要のない欄はそのままにしておくこと。

## 第193回 上級工業簿記②

### 問6

特徴： 補助部門においては、操業度差異は把握されず、予算差異のみが把握される。 ⑤
前提： 補助部門にとって、サービス提供量は管理不能であること。 ⑤

### 問7

		仕掛品	
月初仕掛品	3,255,305	製 品	[ ② 18,133,569 ]
材 料	[ ② 4,450,000 ]	仕 損 費	[ ② 4,626,655 ]
賃 金 給 料	[ ② 3,872,000 ]	(仕 損 品) ②	[ 630,000 ]
切削部門費	[ ② 5,286,120 ]	月末仕掛品	[ ② 2,718,184 ]
組立部門費	[ ② 4,618,328 ]		
(仕 損 費) ②	[ 4,626,655 ]		

(注) 記入する必要のない欄はそのままにしておくこと。

### 問題2

#### 問1

完成品総合原価	原材料費	[ ④ 18,000,000 ]	円
完成品総合原価	第1工程加工費	[ ④ 20,640,000 ]	円
完成品総合原価	第2工程加工費	[ ④ 13,200,000 ]	円

#### 問2

問1では、第1工程の工程完了品原価を( ② 前工程費 )として第2工程に振り替えるのではなく、二つの工程を( ② 単一 )の工程とみなして、最終完成品と各工程の月末仕掛品の原価を計算している。また、原価配分方法として、平均法を採用している。そのため、この方法では、第1工程の月末仕掛品原価の中に、第2工程の( ② 月初仕掛品 )原価の一部が含まれる。このことは、加工作業の流れに沿って正確な原価を計算する考え方にもとづくと、望ましくないといえる。

○数字は予想配点

## 第193回 上級 原価計算①

### 問題 1

#### 問 1

① ④ 変動製造マージン

② ④ 貢献利益

#### 問 2

損益分岐点売上高 ⑥ 3,985,000 千円

安全余裕率 ⑥ 14.85 %

#### 問 3

経営レバレッジ係数 ⑥ 6.73

#### 問 4

営業利益増加額 ⑥ 100,563 千円

計算過程：  $298,850 \text{千円} \times 5\% \times 6.73 = 100,563.025 \text{千円} \rightarrow 100,563 \text{千円}$

#### 問 5

東大塚電工の安全性は ⑤ [改善した・悪化した・不変である]。(該当するものを○で囲むこと)

その理由： 安全余裕率が14.85%から18.66%に上昇したから。 ⑤

#### 問 6

固定費の修正項目として処理する。 ④

その理由： 営業外収益や営業外費用は営業量に比例して増減しないため。 ④

## 第193回 上級 原価計算②

### 問題2

#### 問1

(単位：円)

第1年度	第2年度	第3年度	第4年度	第5年度
⑤ $\Delta 47,100,000$	16,200,000	⑤ 14,240,000	13,610,000	⑤ 15,720,000

#### 問2

[ 5 ] 年度目で回収することができる。 ⑤

#### 問3

投下資本利益率が [ 7.45 ] %なので、この投資案は [ 採用すべきである ] ・ [ 採用すべきでない ]。(該当する方に○をつけること)

⑩

#### 問4

正味現在価値(NPV)が [  $\Delta 840,639$  ] 円なので、この投資案は [ 採用すべきである ] ・ [ 採用すべきでない ]。(該当する方に○をつけること)

⑩

#### 問5

内部利益率法には、(1) 内部利益率が2つ以上存在する場合があるという多重内部利益率の問題、

(2) 高い内部利益率をもたらす投資案が低い内部利益率をもたらす投資案より望ましいとは限らない

という問題が存在するため、正味現在価値法の方が優れている。 ⑩

○数字は予想配点